兵庫工業会
NEWS
2026年11月号
発行／公益社団法人 兵庫工業会
No.326



公益社団法人　兵庫工業会
理　事　　福田　孝
（株式会社福田博商店）

学びと出会いがつくる未来

■巻頭言■

兵庫工業会の皆様、平素より大変お世話になり、誠にありがとうございます。2025年度より理事を拝命いたしました株式会社福田博商店の福田孝と申します。どうぞよろしくお願い致します。

まずは弊社の紹介をさせていただきます。弊社は昭和28年に尼崎市で創業し、今年で73年を迎えました。鋳造用原材料である高純度銑鉄の販売をはじめ、鋳鉄素形材の販売等を国内外で行っております。鋳造用原材料の供給を通じて培ってきた幅広いネットワークと豊富な知見を元に、求められる製品と各鋳造メーカー様の強みを結びつけることで、高い付加価値を提供しています。ものづくりを支える架け橋として、多くのお客様や仕入先様に支えられながら事業を続けてまいりました。

私と兵庫工業会とのご縁は2003年、取引先からお声掛けいただき、「若手経営者懇話会」に入会したことから始まりました。その後、現在の「くすのき会」では第三代代表幹事を務めるなど、多くの経験を積ませていただきました。中でも忘れられないのが、「若手経営者懇話会」の名称変更の際の出来事です。会員から新しい名称を公募することとなり、私が応募した「くすのき会」が採用されました。「クスノキ」は皆さんもご存知の通り、「兵庫県の県木」であり生命力が強く成長が早い樹木です。若手経営者や後継者が多数集う組織であることからクスノキのように、会員一人ひとりが力強く成長していくことを願い、この名称を応募しました。名称決定後、当時の小田会長から「福田君、よくこの名前を応募してくれたね。私もこの名前を付けたかったんだよ」と声を掛けていただき、力強く握手をしていただいたことを今でも鮮明に覚えています。もしかすると最初から会長の中では決まっていたのかもしれませんが、それもまた良い思い出です。

兵庫工業会の活動を通じて国内企業の見学だけでなく、海外視察研修にも数多く参加させていただいております。今年の視察研修先はインドに決まり、私自身にとって初めての視察先でした。出発前からインドの様々な話を耳にしていましたが、衛生面はともかく、街には活気があふれ、人々の逞しさや前向きなエネルギーに触れ、この国が着実に発展を続けていることを肌で感じました。現地の工科大学では学生との交流の機会もありました。慣れない日本語で熱心に話しかけてくれる姿が印象的で、中にはアニメ「NARUTO」を見て日本語を覚えたという学生もいました。「お前」など少し変な言葉遣いに思わず苦笑した場面もありましたが、日本への高い関心と学ぶ意欲に大きな刺激を受けました。異なる文化や価値観に触れたことで、自分自身の固定観念を見直す貴重な機会にもなりました。

振り返れば、こうした学びや出会いは兵庫工業会という場があったからこそ得られたものです。異業種の方々との交流や国内外の先進事例との出会いは、自社の経営や事業活動に活かされているだけでなく、私自身の成長にもつながっています。

これからも兵庫工業会でいただいたご縁を大切にしながら、微力ではありますが地域産業の発展に貢献してまいりたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

第2回 会員訪問・情報交換会　ご報告

会員交流委員会では、会員企業を訪問して事業・製品の理解を深め、共通の経営課題や悩み等について意見交換を行う「会員訪問・情報交換会」事業を推進しています。今年度の第２回目は、神戸市長田区に本社をおく㈱千代田精機を訪問いたしました。同社は今年入会された会員企業で、各種高圧ガス制御機器の製造販売やガス制御システムの設計・施工を主な事業とされています。当日は最新設備の工場見学や、活発な情報交換会を行ないました。

⑴　**開 催 日**　10月5日㈪
⑵　**開催場所**　㈱千代田精機 本社
⑶　**参 加 者**　会員企業　14社26名
　　兵 庫 県　産業労働部長以下4名（オブザーバー参加）
⑷　**内　　容**


㈱千代田精機にて集合写真

・会社概要説明

冒頭の概要説明では、谷口社長より、今年、創業80周年を迎えられる会社の歴史や、高圧ガス制御機器・ガス切断機等の技術的背景をご説明いただきました。長年培われた信頼と高度な技術力を基盤としつつ、近年注目を集める水素・アンモニア等の脱炭素・CO2フリー分野や、半導体関連市場に向けた研究開発にも注力されている取り組みが紹介され、最後に最近のトピックスをご説明いただき、時代と市場のニーズを捉えた積極的な経営姿勢に感銘を受けました。

・工場見学

工場見学では、単体の圧力調整器（レギュレータ）を製造する神戸第二工場と、繊細な配管技術で組み上げられた装置（シリンダーキャビネット等）を製造する神戸第三工場の2工場を見学させていただきました。高圧ガス機器は極めて高い安全性が求められる製品だけに、職人による丁寧な手作業と、厳格な品質管理が徹底されている点が強く印象に残りました。また､若手･ベテランが一体となった技能継承の工夫、安全管理が行き届いた職場環境を体感できました。

・情報交換会

情報交換会では、「わが社の事業紹介と経営課題など」をテーマに、3つのグループに分かれて情報・意見交換を実施しました。

●【Aグループ】海外進出・競合対応と多様な人材採用の可能性

Aグループでは共通の経営課題として、海外進出時の人材確保やコミュニケーションの課題と自治体の海外支援策の活用について議論が交わされました。また、国内の厳格な品質規格と海外安価製品との差別化や、採用面では学科・文理にとらわれない柔軟な採用と育成の可能性について語られました。


情報交換会の様子

●【Bグループ】技術継承・DX推進と作業手順の明文化・標準化

Bグループは、分散する工場での目配りの難しさや、少人数で業務をやり切る体制づくり、技術継承が課題として挙げられ、各社での作業手順の動画撮影による見える化、手順書の完全標準化の工夫、DX推進の取組みなどが紹介されました。

●【Cグループ】人材確保・属人化排除と継続的教育・職場の受け入れ環境整備

このグループでは採用時の熱意の伝達や業務の属人化排除について議論されました。また兵庫テクニカルスクール等の研修事業については、若手社員の成長には研修での学びを現場で実践できるよう上司･管理職の意識改革が不可欠であるなどの認識共有が図られました。

・交流懇親会

懇親会は、神戸港の素晴らしい夜景を臨む会場に場所を移して開催されました。会員同士によるテーブルを越えての挨拶や意見交換が活発に行われ、さらに強固なネットワーク構築の場となりました。


懇親会の様子

今回の訪問会は、徹底した品質管理の現場と技術力、そして経営課題に対する誠実な向き合い方を間近で体感できる大変刺激的な機会となりました。また、兵庫県関係者にもご参加いただき、最後に小林産業労働部長より「事業内容を知る素晴らしい機会となり、狙い通りの会であった」との感想をいただきました。このたび受け入れをご快諾いただき、周到なご準備と丁寧なご案内をいただきました㈱千代田精機の皆様には厚く御礼申し上げます。 当委員会では、今後も会員企業同士が学び合い、高め合える場を提供してまいります。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

＊＊＊参加者ボイス＊＊＊

「各社の経営課題や具体的な工夫を知ることができ大変有意義だった」
「全く別業界ですが、同じ長田区の会社として興味があり参加させていただきました。とても丁寧にご案内・ご説明頂き大変勉強になりました」
「高度な配管技術と厳しい検査体制に感動した」「品質第一の姿勢と手作業の精密さに大いに刺激を受けた」
「交流懇親会場のチョイスが良かった。それが楽しみな参加者も増えるかも」

新潟県合同視察　ご報告

10月7日㈬～8日㈭、産業振興委員会とシン・ものづくり委員会の合同で、新潟視察会を開催いたしました。「エネルギーと伝統産業が拓く、地域の可能性と企業の未来」をテーマに、エネルギー分野の最前線から、極限環境を支えるものづくり、世界に誇る金属加工技術まで、新潟県内の多様な産業を訪問しました。兵庫県庁、新潟県大阪事務所の皆様、三宅会長、金井副会長、吉井副会長をはじめ、総勢29名が参加しました。

初日の訪問先は、㈱大原鉄工所でした。同社は、南極観測隊が使用する雪上車の開発・整備など、厳しい環境下で求められる高度な技術を有しています。特に印象的だったのは、南極で雪上車を確実に稼働させるため、従業員が長期間にわたり現地に滞在し、メンテナンスを担っていることです。製品をつくって終わりではなく、実際に使用される現場に寄り添い、過酷な環境下でも機能を維持するために責任を持って支え続ける姿勢に、参加者一同、深い感銘を受けました。長年培われた技術力と現場での対応力が極限環境での活動を支えていることを実感し、ものづくりにおける技術と責任の重要性を改めて考える機会となりました。


大原鉄工所　雪上車製造現場の視察

翌日は、柏崎刈羽原子力発電所を訪問しました。福島第一原子力発電所の事故を教訓とした安全対策や、重大事故を想定したさまざまな備えについて説明を受け、安全性の確保に向けた取り組みを学びました。設備面の対策に加え、万一の事態を想定した継続的な改善や備えなど、安全を最優先に考え、さまざまなリスクに向き合う姿勢が印象に残りました。エネルギーの安定供給を支える重要な施設において、安全を確保するための不断の努力が重ねられていることを知り、企業活動におけるリスク管理や安全管理の重要性を再認識しました。


柏崎刈羽原子力発電所にて集合写真

続いて、山崎金属工業㈱を訪問しました。同社では、G7サミットやノーベル賞晩餐会などでも採用されるカトラリーを支える、高度な研磨技術について学びました。視察の最後には特別体験会を実施していただき、スプーンの研磨の違いによって、口に含んだ際の触感が変わることを実際に体感しました。さらに、脳波測定を用いて感性の違いをデータとして数値化する取り組みも紹介され、職人技による繊細な品質を、体験と科学的な測定の両面から捉えることができました。伝統技術を磨き続けるだけでなく、製品の価値を新たな方法で可視化する取り組みは、自社の強みを伝えるうえで大きなヒントとなりました。


山崎金属工業　カトラリーの触感体験

最後の訪問先は、㈱諏訪田製作所でした。同社では、高級爪切りなどの製品づくりに加え、職人の価値を最大限に高めるための企業カラーや内装へのこだわり、工場を公開するオープンファクトリーの取り組みを学びました。製品の品質を追求するだけでなく、職人の技や仕事の魅力を来訪者に直接伝えることで、ものづくりそのものの価値を知ってもらう工夫が印象的でした。技術を磨くことにとどまらず、職人の誇りや魅力を来訪者に直接伝え、企業のブランド力へとつなげる自社価値の発信手法を学ぶことができました。


諏訪田製作所の視察

今回の視察では、分野は異なるものの、長年培った技術を大切に品質や安全性を追求し続ける姿勢という共通点を見出すことができ、さらには兵庫のものづくり企業にとっても、自社の強みを磨き、その魅力を社内外へ伝えながら、持続的な成長を実現するための多くの学びを得ることができました。

最後に、今回の視察会の訪問先につきましては、新潟県大阪事務所の関係者ならびに前産業振興委員で現在は大和ハウス工業㈱ 新潟支店長 酒井様にご協力いただきました。また、酒井様には新潟についてのご講話も賜りましたことをご報告し、結びといたします。

ご協力いただいた皆様、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

第44回管理監督者研修ご報告

9月4日㈮～5日㈯の2日間にわたり、44名の参加者を迎えて「第44回 管理監督者研修」を開催いたしました。

今回の研修では、それぞれの役割に応じたスキル向上を図るため、「リーダー・係長クラス」と「管理職クラス」の階層に分かれカリキュラムを実施しました。

初日は、現場や組織を牽引するための実践スキルを徹底的に習得。

リーダー・係長クラスでは、PDCAサイクルの理解を土台に、チームのコミュニケーション強化や効果的な目標設定の手法を身につけました。


リーダー・係長クラス講義風景

管理職クラスでは、「あるべき管理者像」を軸に、成果を生み出すチームビルディングや部下のモチベーション向上、課題解決力を強化。ケーススタディや1on1ミーティングの演習を通じて部下との信頼関係構築を学び、職場での実践に向けたアクションプランを作成・発表しました。なお、作成したプランは2027年2月5日㈮のフォローアップ研修にて振り返りと評価を行う予定です。


管理職クラスにおけるグループディスカッション

初日終了後の夕食情報交換会では開会前から熱心な名刺交換が行われるなど熱気に包まれ、異業種・異職位の参加者同士で活発な意見交換と新たなネットワーク構築が図られました。

2日目の全体講義では、管理監督者に必須となる「労務管理の基礎知識」をテーマに実施。労働時間規制の遵守、メンタルヘルス不調者への対応、安全配慮義務など実務に直結する重要事項を網羅し、グループディスカッションでも深みの増す議論が交わされました。

受講生からは「自社の課題解決にすぐ役立つ実践的な内容だった」「講師の具体的な事例解説が分かりやすく、明日からの仕事へのモチベーションが高まった」等の感想が寄せられ、大変実りある2日間となりました。

次回「第45回 管理監督者研修」は2027年9月10日㈮・11日㈯に開催予定です。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

女性会　講演会

女性会では、10月19日㈪、神戸市中央区二宮町にある「ひょうたんでら融通尊寺」にて、高野山真言宗の中村晃久氏をお迎えし、講演会を開催いたしました。

中村氏は、僧侶として活動される一方、モデルとしても活躍されるなど、多彩なご経歴をお持ちです。高野山では、中村氏の講演を組み込んだツアーも開催されており、外国人観光客からも人気を集めていらっしゃいます。

今回は、中村氏のご紹介により、融通尊寺にて講演会を開催することができました。また、宇喜多副住職からは、お寺の歴史についてもお話しいただき、大変有意義な時間となりました。

中村氏の講演では、塗香（ずこう）を体験したほか、仏像にまつわる豆知識や、真言宗に伝わる瞑想法について学び、実際に瞑想を体験しました。講演の最後には、皆様の諸願成就を願って読経をいただきました。

その後は昼食を囲みながら、質問や意見交換をさせていただき、終始穏やかな雰囲気の中、学びと気づきに満ちた時間を過ごすとともに交流を楽しむことができました。


講演の様子


食事会の様子

変化に挑戦

兵神装備株式会社

〒652-0852　神戸市兵庫区御崎本町1-1-54
TEL：078-652-1111／FAX：078-652-4504
URL：https://www.heishin.jp/
代表取締役社長　市田　邦洋



創業時、神戸市長田区の本社

当社は1968年（昭和43年）に神戸市長田区で創業しました。創業者である小野恒男は、戦地から復員して間もなく鋳鍛造品の仲買業を立ち上げ、自らの家業を模索しながら工場を運営していました。その過程で直面したのが、炭鉱内でポンプがすぐに詰まって排水ができないことや、造船所で船底に溜まったオイルスラッジをポンプで吸い上げることができず人力で掻き出していることなど、様々な業界でポンプが使えないことが作業を妨げているという現実でした。「こうした現場の課題を解決できるポンプはないか」と探求を重ねた小野は、ドイツの大手メーカー、NETZSCH社が手掛けるポンプに出会います。それはフランスのR・モアノ博士が航空機のスーパーチャージャーの開発中に発明した一軸偏心ねじポンプと原理を同じくするポンプでした。「このポンプなら現場の課題を解決できる」と確信した小野は、同社との技術提携契約にこぎ着け、兵神装備を設立しました。記念すべき第１号機は造船所に納入されたスラッジポンプでした。その後用途が拡大し、現在では、上下水道、食品、化学、製紙、土木・建築、自動車、電機など幅広い業界で当社のポンプを採用いただいています。



モーノポンプ®

当社の主力製品の柱となるのが「モーノポンプ®」です。このポンプは、高粘度液や高濃度スラリー、気泡や固形物を含んだ液体から粉体まで、様々な流体を脈動なく定量で、かつ変質させることなく移送できるという大きな強みを持っています。その特長を生かして、食品工場ではジャムやポテトサラダ、味噌、また上下水道などの水処理施設では汚泥、薬品など、汎用ポンプでは移送が困難な流体を確実に運ぶハイエンドなポンプとして、多様なニーズにお応えしています。そして、このモーノポンプの基本原理を応用し、さらに微量で高精度な吐出を実現したのが、もう一つの主力製品である「モーノディスペンサー®」です。液ダレを起こさず、接着剤や樹脂などの高粘度液を狙った場所に正確に点塗布・線塗布できるこの装置は、特に高速・高精度が求められるものづくりの現場で不可欠な存在となっています。



モーノディスペンサー®

創業から半世紀以上が経過し、技術革新やグローバル化が加速するなかで、製造現場を取り巻く環境も劇的な変化を遂げています。環境対応への意識の高まりや人手不足、デジタル化の波は、製造現場に新たな課題とより高度な要求をもたらしています。例えば近年、電気自動車（EV）へのシフトに伴いリチウムイオン二次電池などの需要が急増していますが、その製造プロセスにおいて、極めてシビアな流量精度が求められる電極材や溶剤の供給に当社のモーノポンプが貢献しています。 また、スマートフォンや車載用電子部品、半導体などはますます小型化・高機能化が進んでおり、部品の組み立てにおける接着剤や放熱材などの塗布には、ミクロン単位の精度が求められます。ここで、高精度・微量吐出に特化したモーノディスペンサーが真価を発揮しています。さらに、人手不足が深刻化する製造現場に向けて、部品点数を削減し分解や洗浄の手間を大幅に軽減したサニタリーポンプを展開しています。また、ポンプの稼働状況を遠隔監視、解析できる新サービス「C2-Connect」を販売するなどして、現場の生産性向上や省人化といった課題解決をサポートしています。グローバル化への対応としては、今年7月、タイ・バンコクに東南アジア現地法人HEISHIN Southeast Asia Co., Ltd.（HSEA）を設立しました。これは2023年9月に開設したタイ駐在員事務所を発展させたもので、グローバルサプライチェーンの中核として重要度を増す東南アジア市場でのきめ細かなサポート体制を構築し「モノ＋サービス」でお客さまにより高い付加価値を提供することを目指します。

現在、当社では「経営-ITグランドデザイン」というプロジェクトを推進しております。近年急速な進化を遂げているデジタル技術、特に生成AIを活用して「ナレッジマネジメント推進」や「業務プロセスの抜本的変革」を目指すもので、「40年の会社人生で一度しか体験できないこと」として全社を挙げてチャレンジしています。過去の失敗を含むあらゆる情報（データ）をナレッジマネジメントによって有効な経営資源に変え、デジタル技術を駆使して業務を飛躍的に効率化する。それらがお客さまの経験価値を最大化し、「満足」を超える「感動」へとつながります。当社は創業以来、社是「所期報公」「所期公正」「立業創意」を重んじ、事業を通じて社会に貢献し公明正大に自立した経営を行ってまいりました。この本質を守りながら、新しい時代の変化を果敢に取り入れ、創意工夫することで、「社会に必要とされ、お客さまに選ばれ続ける企業」を目指して挑戦を続けてまいります。

海外視察研修「インドものづくり視察研修」ご報告

●実施日程　2026年9月6日㈰～ 12日㈯

●スケジュール

日付	視察内容	訪問地・宿泊地
6日㈰	午前　伊丹空港発、羽田空港経由で空路デリーへ 午後　デリー到着後、ホテルへ移動 夕方　先発組と合流　ホテルレストランにて結団式	伊丹空港集合 日本 ⇒ デリー デリー（泊）
7日㈪	早朝　フマユーン廟見学～市内視察 午後　THINK Gas Head Office訪問 現地でJETROブリーフィングを実施後、 Osaka Gas India Private Limited（大阪ガス㈱ インド現地法人）によるエネルギー・インフラ関連の勉強会、および 三井住友銀行インド営業部による金融ブリーフィング 夕方　アーメダバードへ空路移動	デリー ⇒ アーメダバード アーメダバード（泊）
8日㈫	午前　サナンド第2工業団地へ Sysmex India Pvt Ltd.（シスメックス㈱ インド現地法人）訪問 現地でJETROブリーフィングを実施後、Sysmex India見学 午後　MITSUBISHI ELECTRIC AUTOMOTIVE INDIA PVT LTD （三菱電機㈱ インド現地法人）　見学 夕方　上記2社の関係者および現地日本人の方を交えた夕食会	アーメダバード（泊）
9日㈬	早朝　アーメダバード旧市街視察 昼　ムケシュ・パテル氏主催　昼食会 午後　ベンガルールへ空路移動	アーメダバード ⇒ ベンガルール ベンガルール（泊）
10日㈭	午前　Makino India Pvt Ltd （㈱牧野フライス製作所 インド現地法人）見学 午後　Tata Elxsi Limited（タタ・エレクシー）見学 夕方　㈱牧野フライス製作所の関係者を交えた懇親会	ベンガルール（泊）
11日㈮	午前　ベンガルールパレス見学～市内視察 午後　PES University（私立大学）訪問し、学生との交流会を実施 夕方　市内レストランにて解団式 空港へ移動 深夜　ベンガルール発、空路日本へ	ベンガルール ⇒ 日本 機内（泊）
12日㈯	午後　成田空港（経由） 夕方　伊丹空港に到着後、解散	

●団員名簿

（順不同　敬称略）

	会社名	所属・役職	氏　名		会社名	所属・役職	氏　名
1	(公社)兵庫工業会	会長	三宅　俊也（団長）	12	播州調味料㈱	代表取締役社長	中川　善弘
2	金井ホールディングス㈱	代表取締役	金井　宏彰（副団長）	13	㈱兵庫製作所	代表取締役社長	門田　成悟
3	㈱フジ・データ・システム	代表取締役社長	藤嶋　純子	14	㈱福田博商店	代表取締役社長	福田　　孝
4	オークラ輸送機㈱	取締役	大庫　　悠	15	㈱フジ・データ・システム	管理部　部長	藤嶋　幹生
5	㈱神戸製鋼所	担当部長	関　　清重	16	フルヤ工業㈱	代表取締役社長	降矢　寿民
6	㈱コベルコ科研	顧問役	松本　　修	17	丸一興業㈱	代表取締役	田中　則彰
7	阪本㈱	代表取締役社長	橋本　　登	18	ミツ精機㈱	代表取締役社長	三津千久磨
8	㈱清水設計事務所	代表取締役社長	清水　俊純	19	近畿日本ツーリスト㈱	西日本法人支店	河村　憲治
9	㈱洲本整備機製作所	常務取締役	番所　祥平	20	近畿日本ツーリスト㈱	添乗員	野勢　幸彦
10	㈱タクミナ	代表取締役社長	山田　圭祐	21	(公社)兵庫工業会	事業推進部　部長	杉谷　邦隆
11	㈱ハーテック・ミワ	代表取締役社長	末継　浩幸				

9月6日(日)〔1日目〕

初秋の爽やかな風が吹き抜ける中、伊丹空港より羽田空港へ向かい、羽田発デリー行きの便に搭乗しました。デリー到着後、前日（9月5日）に出発し、世界遺産タージ・マハル等の事前視察を行っていた先発隊と合流するため、一行を乗せた専用バスは活気あふれるデリー近郊の工業拠点・グルガオンへと向かいました。

宿泊先のホテルにて、全団員21名と、兵庫県およびJETROの関係者を加えた総勢26名が無事に合流し、結団式を兼ねた夕食懇談会が華やかに開催されました。三宅団長（兵庫工業会 会長）のご挨拶により、明日から始まる濃密な視察プログラムに向けて団員同士の期待と士気が高まりました。インドの熱気と喧騒を肌で感じつつ、翌日からの視察に向け、期待の高まる初日となりました。

9月7日(月)〔2日目〕

爽快な朝の光を浴びながら、専用バスにて世界遺産「フマユーン廟」を訪問しました。ムガル帝国建築の白眉とされる赤砂岩と白大理石の壮麗な廟、そして幾何学的に整備された緑豊かな庭園を前に、団員一同はその美しさと圧倒的な歴史の深層に息を呑み、全員で記念撮影を行いました。私たちが抱いていた「喧騒のインド」という単一の先入観が、一瞬にして洗練された気品ある文化国家のイメージへと書き換えられる清々しい幕開けとなりました。そして、バスの車窓からはインド門を望むとともに、第二次世界大戦中に日本と行動をともにし、インド独立を目指したスバス・チャンドラ・ボース像を目の当たりにし、インドの熱い情熱の側面も感じ取ることができました。


フマユーン廟

その後、一行はデリー中心部に位置するTHINK Gas本社へ移動。JETRO デリーよりインド全般の活動状況のブリーフィングの後、大阪ガスインディアによる現地エネルギー・インフラ関連の勉強会、ならびに三井住友銀行（SMBC）による経済・金融ブリーフィングを受講いたしました。視察団員である株式会社フジ・データ・システム 藤嶋管理部 部長による見学レポートを以下に掲載いたします。


フマユーン廟にて

THINK Gasオフィス 訪問レポート

1. 視察概要

ニューデリーのTHINK Gasオフィスを訪問し、三井住友銀行(SMBC)および大阪ガスインディアより現地での事業展開やエネルギー・金融事情を拝聴し、中央監視室を見学した。


SMBC ブリーフィングの様子


Think Gas にて

2. 三井住友銀行（SMBC）の取り組み：現地銀行出資と進出企業支援

SMBCは、現地中堅銀行Yes Bankへの24.9%出資を通じて全土1,350超の支店網を活用する「アジア・マルチフランチャイズ戦略」を推進している。本年6月には同行内にジャパンデスクを開設し、日系進出企業やサプライヤーの現地販売金融（ディーラーファイナンス等）やリテール口座支援を一体で行う強固な体制を整えていた。日系サプライチェーン全体の進出を金融面から後押しする姿勢が極めて印象的であった。

3. 大阪ガスインディアの取り組み：都市ガス事業と再エネ展開

大阪ガスインディアは、現地都市ガス会社THINK Gasへの出資参画を通じ、全土300エリア中19エリア（日本の国土の約9割規模）で独占供給権を獲得し「第2の大阪ガス」の確立を目指している。需要の過半がCNG車（圧縮天然ガス自動車）等交通用である点や高圧一貫供給体制など、日本との構造差が顕著であった。さらに、2070年脱炭素化を掲げるインドにおいて、発電原価が石炭より安価な太陽光・風力の優位性を活かし、CleanMax社と提携したコーポレートPPA（再エネ直接供給）事業にも注力している。

4. 所感と今後の展望

両社に共通していたのは、成長著しいインド市場に深く根を下ろし「第2のSMBC」「第2の大阪ガス」を現地で築き上げるという強固な意志である。

送配電網の脆弱性や地方規制といった成長痛を抱えつつも、中央監視室での徹底した安全・品質管理や、金融・

エネルギーの両面から現地の旺盛な成長を支える日系企業の力強い挑戦姿勢に、インド市場開拓の極めて大きな可能性を実感した。

株式会社フジ・データ・システム　管理部　部長　藤嶋　幹生

THINK Gas社を後にした一行はデリー空港へと急ぎ、モディ首相の出身地であり経済特区として脚光を浴びるグジャラート州･アーメダバードへと飛び立ちました。夕刻に到着後、ホテル内レストランにてグジャラートの滋味あふれる夕食を囲み、日系メガバンクとエネルギー産業のダイナミックな挑戦について熱い議論が交わされました。

9月8日㈫〔3日目〕

この日は、世界の製造業が熱い視線を注ぐサナンド第２工業団地の視察日です。向かった先は、同工業団地の中核を担うシスメックス・アーメダバード工場です。まず、JETRO アーメダバードより、グジャラート州の投資環境などに関するブリーフィングをいただいた後、該社 アーメダバード工場の見学を実施いたしました。こちらのレポートは、株式会社タクミナ 山田代表取締役社長にお願いいたしました。

Sysmex India Pvt Ltd.（シスメックス㈱　インド現地法人）（グジャラート州/サナンド第２工業団地）

シスメックスは、血液や尿などの検体を分析する臨床検査機器や試薬、関連サービスを世界的に展開する医療機器メーカーである。今回見学したアーメダバード工場は2024年8月に竣工し、日本国外におけるグループ最大級の規模を誇るだけでなくグループとして初めての検査機器と試薬の双方を製造する拠点でもある。インド市場向けの現地調達と安定供給を進める中核拠点として大きな役割を担っている。

本施設では約80人が従事し、うち2人が日本人であることや、工場の愛称が「SAKSHAM（サクシャム：ヒンディー語で有能/自立の意）」であることを伺った。現地ではインド政府の製造業振興策「Make in India」に対応し公共調達への参加要件を満たすClass I （現地調達率50%以上）を達成している。

物流面ではモンスーン時期の冠水や道路事情の影響による輸送中の振動にも注意が必要であり、インド特有の事業環境を踏まえた運営が求められていた。一方で、現地サプライヤーとの間には品質や納期に対する認識差もあり、日本と同等の品質を実現する難しさも感じられた。シスメックスはこうした環境の中でも企業理念の根幹である「安心（現地でもAnshinと呼ぶ）」を共通の価値として掲げ、日本国内工場と同等の生産プロセスや教育体制の構築を進めている。

また、インドでは都市部人口が先進国に比べ限定的で地方への拡大余地が大きいことや、日本とは異なり3分類の血球分析装置が主力であることから、市場特性に応じた製品を展開する重要性も理解できた。さらに、排水を生活用水に再利用する仕組みも取り入れゼロディスチャージを目指しており、供給責任だけでなく環境配慮も重視する姿勢がうかがえた。

今回の見学を通じて、アーメダバード工場は単なる製造拠点ではなくシスメックスのインドへの強いコミットメントを示す戦略拠点であると理解した。



シスメックスにて

株式会社タクミナ　代表取締役社長　山田　圭祐

シスメックスを後にし、工業団地近郊のレストランでの昼食を挟んだ後、午後は同じくサナンド第２工業団地に広大な敷地を構える三菱電機（Mitsubishi Electric Automotive India Private Limited）を訪問いたしました。 こちらの見学レポートは、株式会社洲本整備機製作所 番所常務 にお願いいたしました。

MITSUBISHI ELECTRIC AUTOMOTIVE INDIA PVT LTD　見学レポート

1. 工場概要と事業環境

同工場は1998年に設立され、敷地面積52,000㎡、従業員約500名を擁する自動車電装品の中核工場である。主な生産品目は自動車用モーターやバルブユニットで、売上高の実に75%を日系自動車メーカーが占めている。中でもマルチ・スズキ向けが日系売上の約80%を占め、近隣のスズキやホンダの完成車工場と連動しながら、年率15%以上の目覚ましい右肩上がりの高成長を継続している。部品の現地調達率は約50%に達し、残る基幹部品を日本等から供給する効率的なサプライチェーンが敷かれていた。



MITSUBISHI ELECTRIC にて

2. 労務管理と現地インフラの現実

グジャラート州法により「全従業員の85%以上を州内から雇用する」義務があるため、近隣地域から意欲的な人材を採用・育成している。作業員の就労姿勢は極めて良好である一方、より有利な条件を求めた転職志向の高さや、長期間に及ぶ冠婚葬祭休暇への対応など、新興国ならではの労務・工程管理の難しさが浮き彫りとなっていた。折しも工場の真正面には米半導体大手マイクロン・テクノロジーの巨大工場が建設中であり、5千人規模の雇用創出が見込まれることから、高度人材の獲得競争は今後さらに過熱する様相を呈している。また、頻発する電圧低下や停電対策としての大型自家発電設備の保有、環境基準を満たす自社排水処理施設の完備など、自前でインフラを強靭化する日系企業の現場力と執念を垣間見た。

3. 生活実感と今後の展望

街中に出ればクラクションが挨拶代わりに鳴り響き、牛が悠然と車道を横断し、過密乗車が日常風景として広がる一方、モディ首相の視察時には一晩で完璧な道路整備がなされるという、都市部の活気と国家による強力なインフラ整備が同時に進むインドの現状に驚きを禁じ得ない。コスト面では日本生産と比較して約10%の低減にとどまり、安価な労働力だけに頼る段階は過ぎ去ったと感じる。しかし、爆発的なモータリゼーションの波に乗り、新ラインの増設や改善に果敢に挑み続ける三菱電機の姿には、14億人の人口と旺盛な需要を有する巨大市場の未来を切り拓く気迫を感じ取った。

株式会社洲本整備機製作所　常務取締役　番所　祥平

工場視察を終えた一行は、アーメダバード市街へと戻り、伝統的なヘリテージレストランにて､夕食会を開催いたしました。この夕食会には、現地と日本の往来でご活躍されている慶應義塾大学 ＳＦＣ研究所の川根友 上席所員をはじめ、本日アテンドをいただいたシスメックス、三菱電機の方々もご参加いただきました。美しいテラス席で供される滋味豊かで繊細なグジャラート伝統ベジタリアン料理に舌鼓を打ちながら、現地駐在員ならではの生活文化のエピソードなどに花が咲き、夜遅くまで会話の絶えない有意義な情報交換の場となりました。



夕食会の料理

9月9日㈬〔4日目〕

午前中は、世界文化遺産に登録されているアーメダバード旧市街にある「階段井戸」の視察を行いました。乾燥地帯で水を確保するために発達した階段状の井戸で、祈り・沐浴・集会などの場としても使われたインド独自の建築文化が視察でき、インドの奥深い文化的蓄積に圧倒されました。



階段井戸

その後、ホテルに戻り、兵庫県が企画された経済交流会に臨みました。長年グジャラート州と日本の経済・文化交流の懸け橋として尽力され、グジャラート州 日印友好協会 会長、インド・グジャラート州アーメダバード市日本名誉領事などをされている、ムケシュ・パテル氏主催のイベントとなり、日印合わせて70名程度の交流会となりました。今年は、兵庫･グジャラート姉妹州パートナーシップの10周年にも重なり、熱気あふれるものとなりました。パテル氏より、兵庫工業会代表者などへ歓迎の意を込めた伝統の美しいストール（飾り布）を首に掛けていただき、日印の歴史的な絆と今後の双方の産業振興に向けたスピーチで、会を締め括っていただきました。民間の草の根交流の尊さを実感するひとときとなりました。



伝統の美しいストール

昼食会終了後、公務によりここまで同行いただいた兵庫県およびJETRO アーメダバードの皆様にお別れを告げ、一行はアーメダバード空港を飛び立ち、夕刻には「インドのシリコンバレー」として世界中から最先端ＩＴ企業や研究機関が集結する南部の大都市・ベンガルール（旧バンガロール）に到着しました。デカン高原特有の冷涼で心地よい風に迎えられ、ホテルレストランでの夕食を終えた団員たちは、明日からのハイテク産業視察に向けて胸を高鳴らせました。

9月10日㈭〔5日目〕

高原都市ベンガルールの爽やかな朝、一行は工作機械のグローバルリーダーであるマキノ・インディア

（Makino India ベンガルール工場）へと向かいました。こちらのレポートは、播州調味料株式会社 中川代表取締役社長に執筆いただきました。

Makino India Pvt Ltd（㈱牧野フライス製作所　インド現地法人）見学レポート

1. 歴史と現地化が生んだ卓越したビジネスモデル



Makino India にて

マシニングセンタ等の大手工作機械メーカーである牧野フライス製作所は、1973年にシンガポールへ「MAKINO ASIA」を設立。そこを跳躍台として1995年にマキノ・インディアを立ち上げ、翌96年に本工場を開設された。標高約900ｍのデカン高原南部に位置する敷地57,300㎡の広大な工場は、年間を通じて極めて冷涼で過ごしやすい恵まれた環境にある。近年のインド国内における自動車産業および先端IT産業の爆発的な設備投資需要を背景に、業績は極めて好調に推移している。特筆すべきは、進出初期からトップをはじめとする現地経営陣にマネジメントを大胆に委ね、強固な労使信頼関係を構築してきた点である。国内顧客への積極果敢な提案力と、万全のアフターメンテナンス体制が融合した確固たる事業基盤は、日本企業がインド市場で成功を収めるための極めて優れた先行モデルであると強く確信した。

2. 社会貢献と人づくり：MAKINO TECHNICAL TRAINING CENTER


訓練生の皆さん

工場内食堂にて心づくしの日本食弁当をご馳走になった後、午後は同社が2006年に社会貢献の一環として設立した私立技術訓練校「MAKINO TECHNICAL TRAINING CENTER」を訪問した。ここでは全インド（特に経済的困難を抱える貧困地域）の高卒者を対象に、毎年30 ～ 40名を選抜し、学費・寮費・食費の全額無償で1年間の全寮制教育を提供している。工作機械の高度な加工技術だけでなく、社会人としての規律や人格形成、さらには英語・日本語の語学教育に至るまで徹底した育成が行われている。驚くべきことに卒業生の進路を自社に縛ることなく自由な就職を認めており、19年間で実に849名もの有為な技術者を社会に輩出してきたという。自社の利益を超えてインド社会の発展に寄与する高邁な創業精神と、未来への希望に瞳を輝かせる生徒たちの屈託のない笑顔に触れ、胸が熱くなるひとときとなった。

播州調味料株式会社　代表取締役社長　中川　善弘

マキノ・インディアの崇高な人づくりに深い感銘を受けた後、午後はインド最大財閥タタ・グループの中核ハイテク企業であるTATA ELXSI（タタ・エレクシー）を訪問いたしました。こちらのレポートは、阪本株式会社 橋本代表取締役社長によるものです。

TATA ELXSI Limited見学レポート



TATA ELXSI にて

視察研修5日目の午後、ベンガルールの2社目は、TATA ELXSI（タタ・エレクシー）を訪問しました。インドでタタと言えば皆さんもご存知だと思いますが、インド3大財閥筆頭のタタ・グループのことで、TATA ELXSIはタタ・グループ傘下の企業です。

始めに概要のプレゼンテーションを日本語と英語を織り交ぜていただきました。TATA ELXSIは、ただ単に製品設計を請負う企業ではなく、取引先の企業へ人材を派遣し、マーケティングから製品設計やソフトウェア開発、研究開発、運用支援もおこなう多岐にわたってサービスを提供するエンジニアリング企業と私は理解しました。日本においては自動車メーカーとつながりが深く、トヨタ、スズキ、ホンダ、その他パナソニックやテルモなど日本の有力大企業と取引しています。日本のエンジニア人材不足を好機と捉え、自動車用ソフトウェア、GX、スマートファクトリーの分野に注力しているとのことでした。

プレゼンの後は彼らの開発した製品やソフトウェアサービスを見学。その中の一つの、ある日系ティア1企業向け工場稼働監視サービスは、世界各国にある工場の設備稼働の状況が画面で確認でき、設備に異常が起これば監視センターから各工場の現場に連絡を入れ対処することができるというものがありました。私は、各工場が各々で設備の稼働監視を行うものだと思っていましたので、世界中の全ての工場設備を一手に引き受ける事ができるノウハウ、ソフトウェア開発力に驚かされました。

インドには優秀なIT人材が豊富でソフトウェア開発に優れていると聞いてはいましたが、この視察でしっかり感じることができました。

阪本株式会社　代表取締役社長　橋本　登

夕刻、ホテル内レストランにて懇親会を開催。牧野フライス製作所が示した「人づくりに根ざした製造業の真髄」と、タタ・エレクシーが誇る「世界最先端のデジタルエンジニアリング」という二つの強烈なインパクトに、団員一同の議論は大いに白熱いたしました。ハードウェアのものづくりを得意とする兵庫の企業群が、いかにしてインドの卓越したソフトウェア・IT力と共創していくべきか、未来への展望に心躍る一日でした。

9月11日㈮〔6日目〕

いよいよ現地視察の最終日を迎えました。午前中は、英国チューダー朝様式を取り入れた優美な歴史遺産「ベンガルールパレス」を見学しました。壮麗な城壁、美しく刈り込まれた芝生の庭園を背景に、英国統治時代とマハラジャの歴史が交錯する重厚な空間に身を置き、全員で記念写真に収まりました。

そして午後、今回のミッションの集大成とも言えるインド屈指の名門私立総合工科大学「PES University」を訪問しました。こちらのレポートは、オークラ輸送機株式会社 大庫取締役にお願いいたしました。


ベンガルールパレスにて

インド名門私立総合工科大学「PES University」訪問レポート

６日目、視察研修最終日、インド名門私立総合工科大学 PES Universityを訪問しました。

当日のプログラムとしては、①日本企業12社による各社の紹介プレゼン、②参加学生とのセッション、③同大学での取り組み紹介を含むキャンパスツアーという形式で行われました。

参加学生数は約50名と伺っていましたが、当日はそれを上回る約70名の学生が参加され、日本語を勉強している学生や、日本企業に興味を持つ学生が非常に多くいた印象でした。


参加学生の皆さん

各社のプレゼンでは途中に拍手が起きたり、終了後には写真撮影の希望者も現れたり、「インターンの受け入れはあるのか？」、「採用の申し込みプロセスは？」と具体的な質問を投げかける学生も多く、自らのキャリアや将来について、主体的に考え、積極的に行動する姿勢が非常に印象的でした。

また、滞在中には複数の関係者から「インドにおける女性の社会進出はまさにこれからの段階である」との説明を受けました。そうした背景もあってか、PES Universityでは女子学生の姿も多く見られ、今後さらに多くの女性が理工系分野や産業界で活躍していく可能性を感じました。

キャンパスツアーでは主に同大学における教育環境や方針についての説明があり、BAJAJ Auto（インドを代表する二輪・三輪車メーカー）と共同で運営するBAJAJ Engineering Training Centre をご紹介いただきました。ここでは主に製造業向けの実践的な技術教育が行われている他、Industry/Equipment Partnersとして協賛企業を募り、参加企業による講義や実機の設置、インターンシップの受け入れ等、様々な活動が展開されているようです。


意見交換の様子

堅調な成長を続けるインドの勢いを支えているのは、まさに今回出会ったような優秀で意欲溢れる若者たちなのだと実感しました。また大学と企業が連携して実践的な教育を行う取り組みは非常に参考になるものであり、日本においても産業界と教育機関がより密接に連携し、実践的な学びやキャリア形成の機会を拡充していくことの重要性を改めて感じる機会となりました。

オークラ輸送機株式会社　取締役　大庫　悠


解団式の様子

PES大学での熱気あふれる交流を終えた後、ベンガルール国際空港に向かう途上の市内レストランにて解団式・夕食会を執り行いました。席上、「インドに対する画一的な固定観念が180度覆された」、「混沌の中に

こそ、世界を動かす圧倒的な熱量と合理性が存在していた」、「目の輝きを持っている、優秀な理工系人材の若者たちに、次のビジネスを切り拓く可能性を感じた」といった、手応えに満ちた声が次々と寄せられました。互いの無事な行程走破を讃え合い、名残を惜しみつつ深夜の国際空港へと向かいました。

9月12日㈯〔7日目〕

未明、一行を乗せた国際便はベンガルールを離陸。成田空港を経て、全員無事に伊丹空港へと帰着いたしました。全７日間にわたる濃密で実り多き「インドものづくり視察研修」は、全ての行程を終了しました。

ご参加いただきました団員の皆様には、過密な移動スケジュールや現地特有の環境下においても終始素晴らしいチームワークを発揮いただき、スムーズな視察運営にご協力賜りましたことを、事務局一同心より厚く御礼申し上げます。

インドものづくり視察研修 総括

本研修では、デリーでの大阪ガスインディア（THINK Gas）をはじめ、アーメダバードでのシスメックスインディアや、三菱電機 オートモーティブ インデァ、ベンガルールでの牧野フライス製作所 ベンガルール、TATA ELXSI、そしてPES Universityに至るまで、現地で事業を展開する日系・インド有力企業や教育機関を訪問いたしました。各拠点での意見交換や最先端の現場視察を通じ日系企業が、意識してマネジメントをローカルに任せる姿勢で運営されていることと、一方、モディ首相が掲げる「Make in India」や「Digital India」の国家スローガンが、現場の圧倒的な推進力となっていることを肌身で体感いたしました。

特に私の印象に残っているのは、最終訪問地のPES Universityにおいて、優秀なインド人材を将来の日本で働く大切な仲間として迎えることも視野に入れ、現地の学生たちと活発な意見交換を行ったことです。日本への「興味」を遥かに超えた深い知識を持つ学生たちの姿が非常に印象的であり、彼らの熱い心とエネルギーに触れることで、将来の協働に向けた大きな可能性を確信する貴重な機会となりました。巨大な内需と優秀な人材を背景にした成長スピードの速さを胸に、今回の視察で得たリアルな空気感やネットワークを活かし、日本が誇るモノづくりの強みとインドのダイナミズムを融合させ、次なる事業展開やイノベーションへ繋げていきたいと考えております。

本研修の実施に際し、多大なるご支援とご協力を賜りました兵庫県ならびにJETROの皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

公益社団法人兵庫工業会　会長　三宅　俊也

新　会　員　紹　介

オリバーソース株式会社

代 表 者	代表取締役社長　道満　龍彦
所 在 地	〒650-0047 神戸市中央区港島南町3-2-2
T E L	078-306-6300
F A X	078-306-6306
U R L	https://www.oliversauce.com/
資 本 金	99,600千円
従業員数	52名



■営業品目

とんかつソース、お好み焼ソース、ウスターソース、焼きそばソース、たこ焼ソース、どろソース　他各種調味料製造販売

■事業内容

当社は1923年（大正12年）創業の、ソースを中心とした調味料メーカーです。日本で初めて「とんかつソース」を商品化し、ウスターソースの熟成過程で生じる沈殿物を活用した「どろソース」など、独自の発想から新たな市場価値を創出してきました。伝統を礎に、時代の変化を捉え、これからも業界に先駆けた挑戦を続けてまいります。

サンコー株式会社　姫路営業所

代 表 者	所長　美馬　大樹
所 在 地	〒672-8014 姫路市東山326-3
T E L	079-280-1035
F A X	079-280-1036
U R L	https://www.sanko-kk.net/
資 本 金	70,000千円
従業員数	320名



■営業品目

各種産業用締結ねじ部品・精密機能部品の製造、販売

■事業内容

1961年の創業以来、ネジを中心にプレス・鍛造などの商社機能と切削・圧造としてのメーカー機能を融合し、お客様の多様なニーズに対応。国内外800社超の購買ネットワークを活用し、大量生産から多品種少量生産まで、品質・コスト・納期に優れた製品・サービスを提供し、モノづくりの課題解決に取組んでいます。「社会の豊かさを品質と信頼でつなぐ」使命のもと、お客様にとってなくてはならない、そして選ばれる存在であるために、歩み続けます。

新栄製工株式会社

代表者	代表取締役　中西　勇太
所在地	〒673-0453 三木市別所町下石野字中山南1095-6
TEL	0794-82-3111
FAX	0794-82-9700
URL	https://www.shineiseikoh.co.jp/
資本金	15,000千円
従業員数	33名



■営業品目

産業用配電盤、無停電電源装置等の小物部品や金属製カバー類の製作、車軸や船舶関係の部品の製造

■事業内容

当社は精密板金加工および製缶板金加工を主力事業としています。鉄・ステンレス・アルミ等の金属加工に対応し、切断・曲げ・溶接・塗装まで自社一貫体制で展開しています。富士電機㈱等の大手メーカー向け配電盤や制御盤、無停電電源装置（UPS）、車両ユニット、各種筐体などを手掛けており、試作1個から量産品まで高精度な製品を提供することによりお客様から信頼と安心を獲得しています。

日工興産株式会社

代表者	代表取締役社長　藤井　博
所在地	〒674-0064 明石市大久保町江井島1013-2
TEL	078-947-5340
FAX	078-947-5306
URL	https://nikko-kousan.co.jp/
資本金	290,000千円
従業員数	35名



■営業品目

建築物のリフォーム及び新築・増改築、損害保険代理店業務、生命保険の募集に関する業務、不動産の売買・賃借・交換及び管理、日用品雑貨・食料品・酒類（ドイツワイン）の販売、事務代行業務、飲食店経営

■事業内容

当社は、明石市で100年以上の歴史をもつ日工株式会社の子会社として1967年に設立いたしました。保険事業や不動産事業など幅広く展開し、中でも建設事業では、親会社の建物改修で培ったノウハウを活かして、お客様の店舗やオフィス等の改修を手がけております。明石・神戸・加古川・姫路エリアを中心に施工実績は5,000件以上です。今後も地域に貢献し、お客様の豊かな暮らし作りをお手伝いできるよう努めてまいります。

一般財団法人京都工場保健会神戸健診クリニック

代表者	会長　丸中　良典
所在地	〒650-0022 神戸市中央区元町通2-8-14 オルタンシアビル
TEL	078-326-2430
FAX	078-393-8130
URL	https://kobekenshin.jp/
資本金	50,000千円
従業員数	68名



■営業品目

人間ドック健康診断、生活習慣病予防健診、定期健康診断、特殊健康診断等

■事業内容

神戸元町駅前にある当施設は、おかげさまで本年12月、開業20周年を迎えます。年間約58,000人（うち人間ドック約10,000人）の方に健康診断をご受診いただいており、「おもてなし」と「くつろぎ」をコンセプトに、ホテルのような空間で上質な健診をご提供しております。異人館を思わせるドックフロアや男女別の健診フロアを備え、土日の受診にも対応しております。ご自身の健康と向き合う貴重なひとときを、ぜひ当施設でお過ごしください。

叙勲・褒章の栄

2026年度秋の叙勲・褒章が発表され、当工業会では次の方がその栄に浴されました。
会員の皆様とともに、心からお祝申し上げます。

旭日双光章	岡田　兼明　氏	大和産業株式会社　代表取締役社長

会員交流懇親会“忘年パーティー”のご案内

今年も「会員交流懇親会“忘年パーティー」を開催いたします。
是非、多くの皆様のお申込みをお待ち申し上げております。
お申込みは右記QRコード、または兵庫工業会ホームページよりお願いいたします。

◆日　程：2026年12月4日㈮　16：00 ～ 19：00
◆場　所：神戸ポートピアホテル（神戸市中央区港島中町6-10-1）
　　イベント　南館 地下1F「トパーズ」　懇親会　本館 30F「GOCOCU」
◆参加費：13,000円／人

兵庫工業会ホームページに会員様の企業広告を掲載できます。



※広告をクリックするとＨＰへ移行いたします。

◆サイズ：縦：横 ＝ **400px：580px　JPEG形式として**
容　量 ＝ Max 4MBまで

※アニメーション、ロールオーバー等画像が変化するものはご遠慮願います。
※広告デザイン等につきましては、広告主様で作成をお願い致します。

◆掲載期間・料金：**１年 ／ 20,000円**（税別）
※掲載期間についてはホームページ掲載後１年とします。

◆詳細・お申し込みは右記ＱＲコードまたはＨＰよりお願いいたします。

お申込・問合せ先
公益社団法人 兵庫工業会 事務局（担当：岡、宮岸）
〒650-0011 神戸市中央区下山手通6-3-28　兵庫県中央労働センター３階
TEL：078-361-5667　FAX：078-371-4336

冬期休業のお知らせ

本会では、誠に勝手ながら2026年12月29日㈫～ 2027年1月3日㈰まで、冬期休業といたします。（2027年1月4日㈪より通常業務）この間、何かとご不便ご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

会　員　動　向

代表者役職変更

会　員　名	新　役　職	旧　役　職	変　更　月
大成建設㈱ 神戸営業所	営　業　所　長　　三宅　大介	支店長	2026年10月

住所変更

企　業　名	新　住　所	変　更　月
㈱神防社	〒651-0071　神戸市中央区筒井町2-3-20	2026年10月
一般社団法人 兵庫県経営者協会	〒651-0086　神戸市中央区下山手通6-3-28 兵庫県中央労働センター2階	2026年11月

イベント情報

月　日	事業名・内容	場　所
12月4日㈮	会員交流懇親会“忘年パーティー”	神戸ポートピアホテル
12月16日㈬	北播磨地域交流会	播州織 tamaki niime（西脇市）
2月17日㈬	合同委員会	神戸国際会館
3月19日㈮	第3回理事会	ホテル日航姫路

公式SNSで情報発信中！
ぜひ、フォロー・ご登録ください！
Instagram➡　兵庫工業会HP➡

ご入会・セミナー・講演会・研修などのお問合せ・お申込みは…

公益社団法人 兵庫工業会

本　　部
神戸事務所
〒650-0011　兵庫県神戸市中央区下山手通6丁目3番28号 兵庫県中央労働センター３階
TEL 078(361)5667／FAX 078(371)4336／Eメールアドレス mail@hyogo-ia.or.jp
URL http://www.hyogo-ia.or.jp

姫路事務所
〒670-0962　姫路市南駅前町123 じばさんびる３階
TEL 079(223)8230／FAX 079(223)8231